

無茶飲みザンゲ

日野善太郎

——田月袋が破れてる田力のはたよ、し——

せい分、無茶な飲み方もしたもんだ。

二の午前後の暮る正月の三日三晩、眠るときのほかは、盃を手から放さなかつた。たことがある。そのうちの一晚は徹夜になつた。たから、眠る時間も惜しんで飲んでいれたわけだ。

若いころは、つまらぬことガ目慢のタネに酒なるもので、大酒を飲んで得意になつて、酒の味もろくに判らぬのに、人より多く飲むのが、カンコイイと思つてたらしい。

二十二、三のころ、畑のついた焼酎を二合ばかり、大さな鉢に入れて一息に飲んでみせたら、仲間が目を丸くした。人があどろくといふ所になつて、もう一ぱいおかわりして、これも一息にのんだ。川水ながら呆れた話だ。

さすかに三ばい目はのめなかつた。ボタンキエーとヒミ、くり返つて、それからあとのこととはおぼえていない。

三十すぎても、四十になつても、深酒のくせはなおらなかつた。な。明け方まる飲みつづけて、憂なんが、気さつくとオテントサマが果の空に顔出してた。なんことモ、ちよくらよくだつた。

いらいふらしなカ
う、それをも意味
をばつて仕事には
出た。掘り方では
コニウリをモ、人
にまけずにザんば

ハウマツカ 産の蒸留酒。ライ麦 の他から製し、日 産用いて濃縮する。 アルコール40〜60%
--

った。飲んで仕事に出られぬような酒なら
のむな、というのがエ方の意地だつて。

高いところへのぼるくせ

酒くせも身まりいの方じゃなかつた。酒の
上のはくじりなら、かぞえ切れぬほどある。
小だんは一什のんでもおとなしいのだが、
何か気に入らぬことがあると、ガラリと人が
変つてあば州だす。生まれたときから寛々
らし、この世に不平は山とある。

それから、酔うと高いところへ上りたがる
へんなくせがある。松の木にのぼつて枝に
こしかけたり、屋根にあせ、毛り。

二十七のときだ、たかな。

や、ぱり酒のんでるうちに、愛知らぬ人と
けんかして、せんぜん樹原の古い家の屋根に
上つてしまつた。けんかの相手はいつのまに
かいなくなつて、近所の人ざさわぎだした。
だれかが一〇番したらしい。ポリ公がこ
んできかけた時、このポリ公、高所恐怖症な

のが、屋根にはもう上つてこなし。物干草を
かりてきて、下から突いたり、ふりまわした
りしてゐるのだ。

どういふわけか、警察というのは大キライ
だ。見ただけむかむかする。

ましてこのときは酔つていた。人をトニボ
ナ何かとまちがえやが、こゝろ、馬鹿にするな。
こんで、屋根の瓦をはいでなげこや、た。

ざま？みろ、くやしうか。たら上つてこい。
でも、しまいにつかれてしまつた。そこへ

小だん仲のいい友だちがきて、近所迷惑だか
らありてこいよといつたので、ちよつといい
しおとさだから、おりてい、たらすぐつかま
つて交番へ連れこて行かされた。

そのまゝ眠つてしまつた。たらしい。

気がつくともう夜中で、交番の中へパン子
にねかされていた。

それはいいが勝手
錠をかけたう
之、足にも手錠が

人キキラー、メキミ
コ産の強い酒。竜舌蘭
の樹液からつくる。

かかつていて、あまけにパン子につなはる。
腹が立つたな。

この野郎、オレはこのくらいなことを隣参
するようになつて、ないぞ。

パン子を村中にしよ、たまま、交番の中で
あば州でやつた。もちろん、そのあとはフタ
箱行きだ。

そんなことかあつても、茶酒とポリ公ざら
いは一生なありやうもなかつた。も、とビ酒
とせのふはいくらがよくなつたかな。

飯場の酒

それほど飲んだ酒を一年ほど前から、
さつぱりやめてしまつた。胃が悪くなつた、この
ゆゑなく、たしい、た太が本当だが。

よくやめられたねえ。何ともないのがね。
と、以前を知つてゐる飲み仲間が不思議そ
うな顔でいう。おれほど好きだつた酒をやめ
るのは、さぞ苦しかつたらうと同情もしてく
れる。

しかし、それほど苦しくはなかつた。たのた。
大体、飯場で口酒はのまないことにきめて
いた。少々ムリしても外さのんだ。飯場の酒
は高いから、同じねだんなら、ネエちゃん
いる店の方がいいにきまつてる。

飯場では少しゆつくりの人をいると、場場
から白い眼でにらまれるが、飲み屋なら、毎
度あふきにぐらいい言つてくれるし、手がす
いこればネエちゃんか話相手になつてくれ、
一ぱいぐらいいいさく出る。それこそ話あえ
ば、……といふことになつたかもしれない。

たけと、飯場でのまなかつたのは、そのた
めばかりではない。

今から十五、六年前の話だ、近ごろは
め、たにお目ヒカ
かれはドブアウ
か、そのころは
くらでもあつた。
親方が朝鮮人の
飯場なら、たいて

ヘラム、西インド諸島
の新産。蒸餾室に水を
加え、蒸餾させて造る
蒸留酒。ジャマイカ産
キングストーンが有名。

いドラックをおいていた。それも自分のとこ
ろをつくって若い髪に売、ている所があつた。
ドラックをつくる材料は米とコウジだが、
毎日たく飯があまると、飯場では月末にこま
る。冷や飯は誰もたべたがらない。マキメシ
をつく、たりしても、毎日ではあきる。すて
るものはも、たいない。そこで考えついたのが
その残りめしを夕ネにして、ドラックをつく
ることだ。

まさに一石二鳥の名案だ。残り飯はかたず
くし、売上げは姉ごの小ブかいになる。豊な
んがたと、みんな食がすすまひし、残った
めしはくさりやすい。それがネックレスの一
つにも代けるのだから、姉ごはホウホウ、こ
たえられなかつた。

だが一寸待、た。よく考えると計画があめ
ない。だってネタの残りめしは、もともとオ
シたちが毎月はらう飯代を買、た米だ。姉ご
が買、うのはコウジだ。姉ごは丸もうけだ
が、こ、ちは飯代をはら、う。ドラック代ま

りなかつた。

のめよと出された蓋をこよると、相手は
銀方をこよして、オレの酒をのめないので
ういうわけだ、とくる。こよれるのにホネが
おいた。大勢あつて、飲んでるとき、一人
だけジュースなんかの人であるのも、さみしい
もんだ。

つらいけれども飲めわけにはいかない。買
酒瓶を三度も四度もや、た、この破れ買袋に
アルゴールを入れたら、今度こそ天国行きだ。
やつに情しい生命でもないが、お丁めがちが
めることはあるまい。

近ごろ、こんな話があつた。

ある飯場に、十五日契約できたなかに田中
という若い男がいた。カモ強しし、仕事は何
をさせても、一通りこなすし、人間もし、か
りしているようなので、飯場で口いい番の家
かきたと喜んでた。

やうなると人情で、ほかの者には千円しか
前貸ししなくても、田中には二千円とか、三

百はらわれれる。たまらない。おまけにその
ドラックが、よそより高いときた日には、か
んだり、け、たりじゃないか。

と気がついたから、それきり飯場では酒を
のまないことにきめた。のめたいときは外で
のんだ。だからその飯場では酒はのまないの
だと思われたい。

外での酒には金がいる。その金はいつも不
自由している。ツツておのものはクライだ。だ
から勘定から勘定まで、まるまる一ヶ月、酒
、ケのないこともあ、た。もともとガマン強
い方なのだ。

こんど酒をやめて、苦しくなかつたといえ
ばウソになるけれど、どうにか辛抱できたの
日、以前にやういう経験があ、たからだ。

つきあい酒

苦しかったのは、酒をのめるとのことではなく
こ、友だちとのつきあいの方だ。

酒をやめた。とき、でもそれをも信用してく

千円とか貸してく出る。一筆か万筆その調子
だから、田中の方でもこの飯場は居心地がよ
かつたようだ。

あ、という宿に満期になつたとき、親方は
重代だとい、て三千円余命にくれた。その代
めでも日かろうが、それから四日目にもど、
てきた、また十五日の契約ではたらくことに
な、た。

その田中が諸式の酒を一度もとらない。か
とい、こ酒をのめはないらしいのは、何と
なくカンでわか、たから、

やどうしてだい

と飯場が聞いたら

「オレ、酒をのめが得意だから、ここの飯場
でも仲間とトウチ
ルをおこさないよ
うに、飯場にいろ
同様のまないこと
にしてるんだ」

ヘアブサン、ニガヨ
モヤの液汁を加えたり
キニール。70%のアル
コールを含む。殺菌。

と告げた。

ある日——。朝から雨になった。

ほかの現場はみな休みになった中、一カ所だけどうしても出なければならぬ現場があった。五人ほど仕事に出て、夕方までぬかにたって帰ってきた。

帳場が気が毒が、て一升出した。五人は湯のみでやりはじめたが、やがて一升では足りなくなり、金を出しあってまた一升買ってきた。その五人の中に田中がいた。

はじめは飲まなかつてもりていたらしいが、好きな酒をすすめられて、そうそうことわりさしるものではない。ホニの一口のつエリがもう一ぱいになり、二ぱいになり——。

翌朝、荷物をもとめて田中は飯場を出ていった。親方や帳場がしきりに止めたけいれもさかなかつた。

雨の日のホニの一口が、その夜中には組はずぼれつものけんかになった。部屋のものは一晩中眠れなかつた。田中はその責任をとつ

たのだ。

オレは意地の狭いダメな男です、と最後にいって言葉を出した。酒をすすめた帳場は、身を切られるような後悔を味わった。

酒の功德

アルコールはカロリーを脂肪と炭水化物の中間にあたり、栄養として役立つが、一部は熱として発散される。少量の飲酒は、胃液の分泌を高め、食欲を増進し、未しやう血管を拡張して血行をよくし、疲労回復に役立つ。また気分を明快にするので、適度に飲用すれば有効である。

多量に食用すると、胃粘膜を刺激して、胃炎の原因となる。またアルコールは麻痺作用があり、大脳皮質に作用して、機能を低下させ、多量の酒を常用すると慢性アルコール中毒を起す。

柿はタニニンの作用でよいが、ましの効果がある。